

資料提供

(県政)

2020年基準 消費者物価指数(大津市)
 2022年(令和4年)2月分

(令和4年3月18日公表)

1. 2022年(令和4年)2月分消費者物価指数(大津市)概況

	指 数	前月比(%)	前年同月比(%)	概 況
総合指数	100.2	0.2	0.8	前月比は2か月連続で上昇した。 前年同月比は4か月連続で上昇した。
生鮮食品を除く 総合指数	99.8	0.2	0.4	前月比は2か月連続で上昇した。 前年同月比は4か月連続で上昇した。
生鮮食品及び エネルギーを除く 総合指数	98.8	0.0	-0.9	前月比は横ばいだった。 前年同月比は20か月連続で下落した。

2. 総合指数と対前年同月比の推移

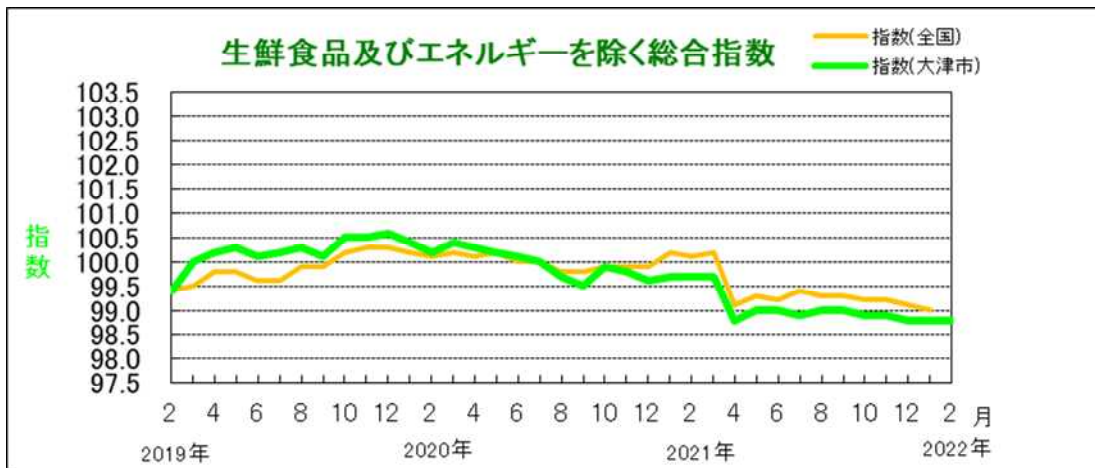


3. 生鮮食品を除く総合指数と対前年同月比の推移



※「生鮮食品」…生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物

4. 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数と対前年同月比の推移



※「エネルギー」…電気代、都市ガス代、プロパンガス、灯油、ガソリン

☆全国における消費者物価指数の概況は総務省統計局のHPにより公表されています。
 総務省統計局消費者物価指数(全国) → <https://www.stat.go.jp/data/cpi/>

5. 10大費目指数と前月・前年同月比および寄与度

2020年=100

区 分	指 数	対前月		対前年同月	
		上昇率(%)	寄与度	上昇率(%)	寄与度
食 料	102.2	0.2	0.05	2.9	0.77
住 居	101.2	0.0	0.00	0.6	0.10
光 熱・水 道	107.6	2.4	0.17	12.5	0.82
家具・家事用品	99.1	-1.1	-0.05	0.6	0.02
被服及び履物	97.5	0.6	0.02	2.5	0.09
保 健 医 療	97.9	0.1	0.00	-0.7	-0.03
交 通・通 信	93.4	0.1	0.02	-6.8	-1.13
教 育	99.3	0.0	0.00	0.7	0.03
教 養 娯 楽	101.4	0.1	0.01	0.6	0.06
諸 雑 費	101.9	-0.5	-0.03	1.2	0.08

* 寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

6. 前月との比較

総合指数は100.2で、前月と比べて0.2%上昇しました。中分類指数の主な項目をみると、電気代(2.8%)、ガス代(4.9%)が上昇し、下落に寄与した主な項目はありませんでした。

生鮮食品を除く総合指数は99.8で、前月と比べて0.2%上昇しました。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は98.8で、前月と横ばいでした。

● 上昇した中分類指数の主な項目（寄与度順）

電気代[光熱・水道]	(+)	2.8%
ガス代[光熱・水道]	(+)	4.9%

● 下落した中分類指数の主な項目（寄与度順）

なし

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[]内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品(生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物)については、小分類指数です。

7. 前年同月との比較

総合指数は、前年同月と比べて0.8%上昇しました。中分類指数の主な項目をみると、電気代（15.6%）、自動車等関係費（2.8%）等が上昇し、通信（-34.3%）、教養娯楽品（-7.2%）等が下落しました。

生鮮食品を除く総合指数は、前年同月と比べて0.4%上昇しました。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は、前年同月と比べて0.9%下落しました。

● 上昇した中分類指数の主な項目（寄与度順）

電気代[光熱・水道]	(+)	15.6%
自動車等関係費[交通・通信]	(+)	2.8%
ガス代[光熱・水道]	(+)	23.3%
生鮮魚介[食料]	(+)	13.7%
生鮮野菜[食料]	(+)	8.2%
教養娯楽サービス[教養娯楽]	(+)	2.3%
生鮮果物[食料]	(+)	12.5%
菓子類[食料]	(+)	4.0%
設備修繕・維持[住居]	(+)	1.7%
家事用消耗品[家具・家事用品]	(+)	5.6%
肉類[食料]	(+)	1.9%

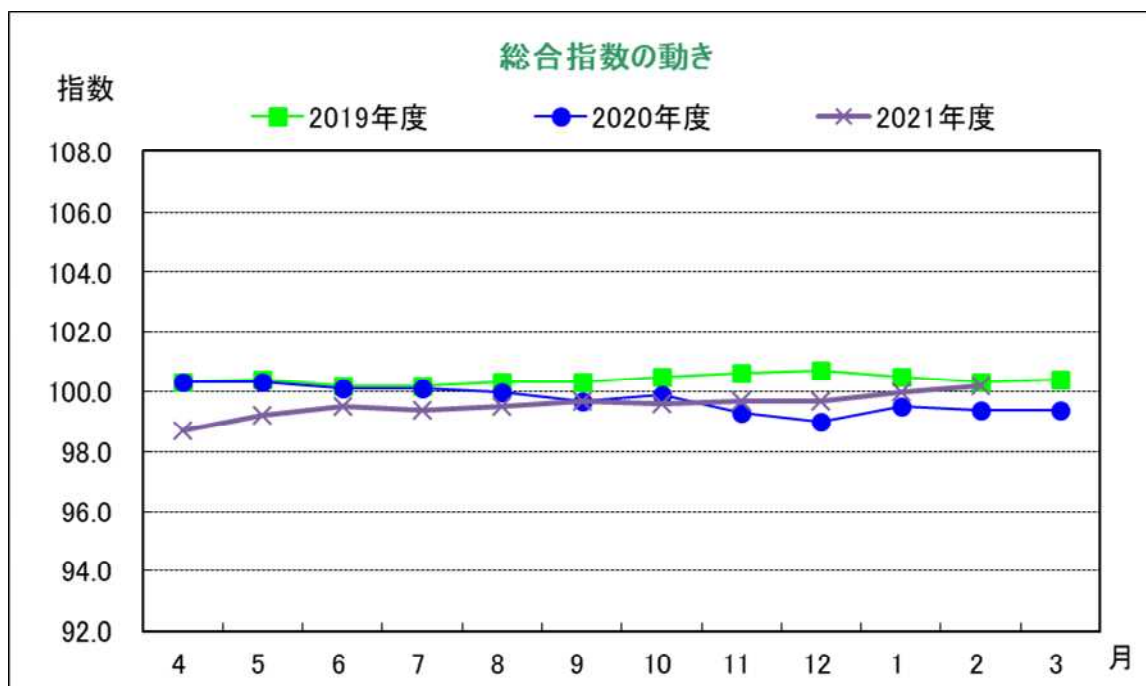
● 下落した中分類指数の主な項目（寄与度順）

通信[交通・通信]	(-)	34.3%
教養娯楽用品[教養娯楽]	(-)	7.2%
家事用耐久財[家具・家事用品]	(-)	4.0%

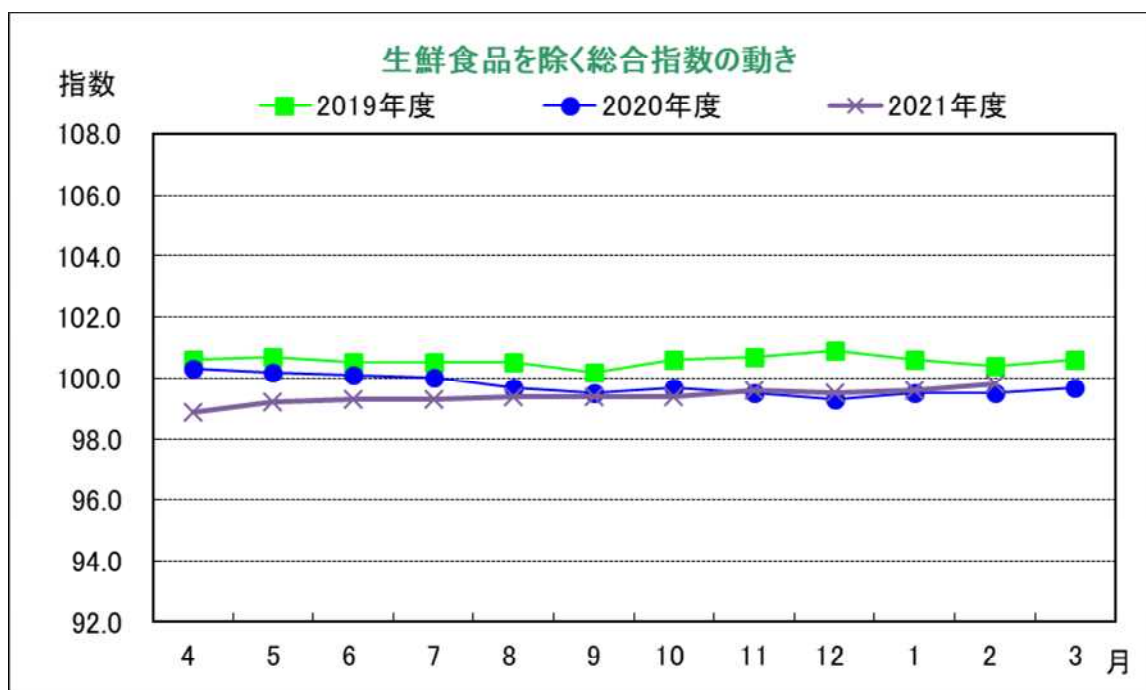
注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年同月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[] 内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品（生鮮魚介・生鮮野菜・生鮮果物）については、小分類指数です。

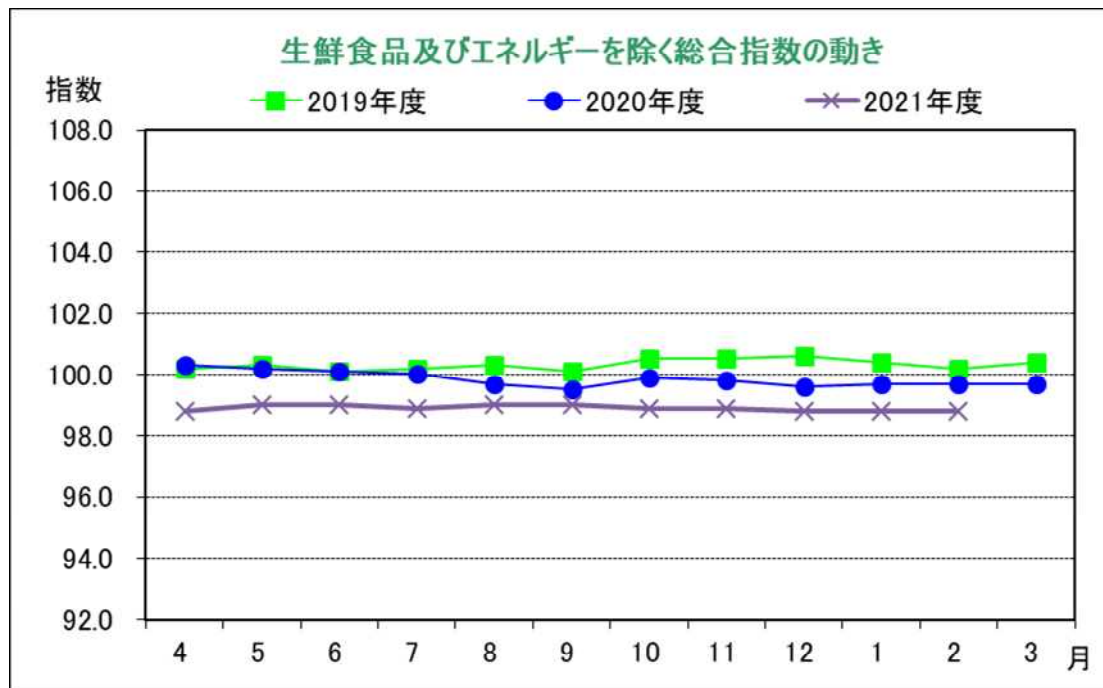
8. 総合指数別の年度比較



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2019年度	100.3	100.4	100.2	100.2	100.3	100.3	100.5	100.6	100.7	100.5	100.3	100.4
2020年度	100.3	100.3	100.1	100.1	100.0	99.7	99.9	99.3	99.0	99.5	99.4	99.4
2021年度	98.7	99.2	99.5	99.4	99.5	99.7	99.6	99.7	99.7	100.0	100.2	

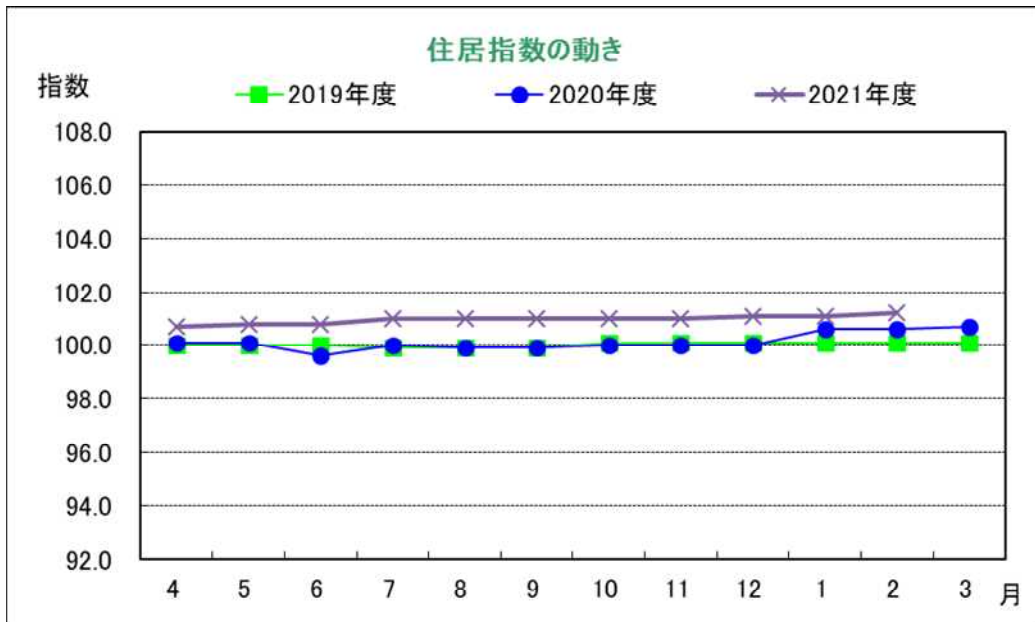
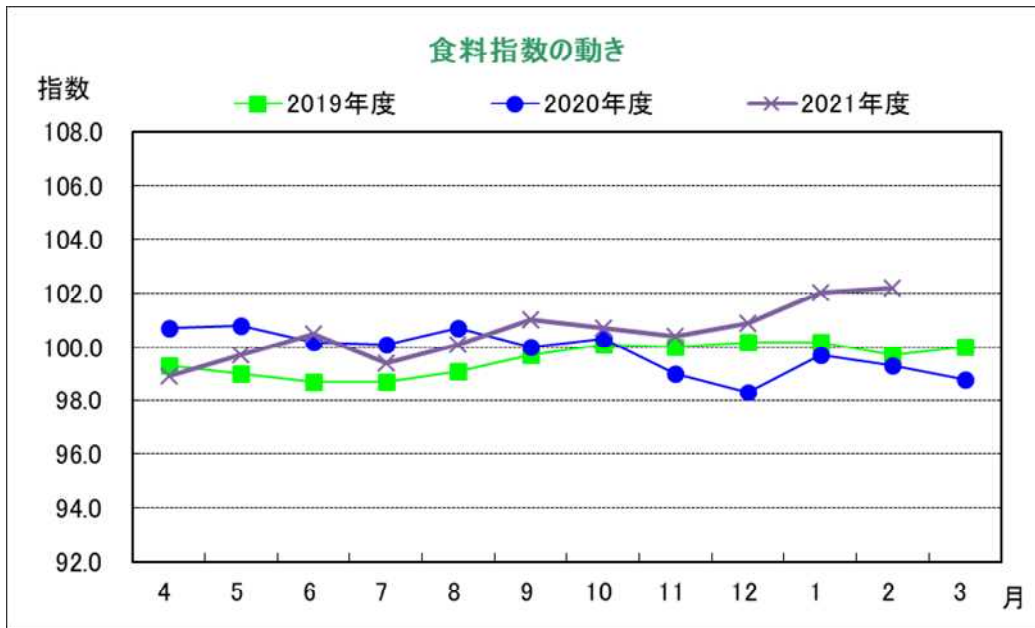


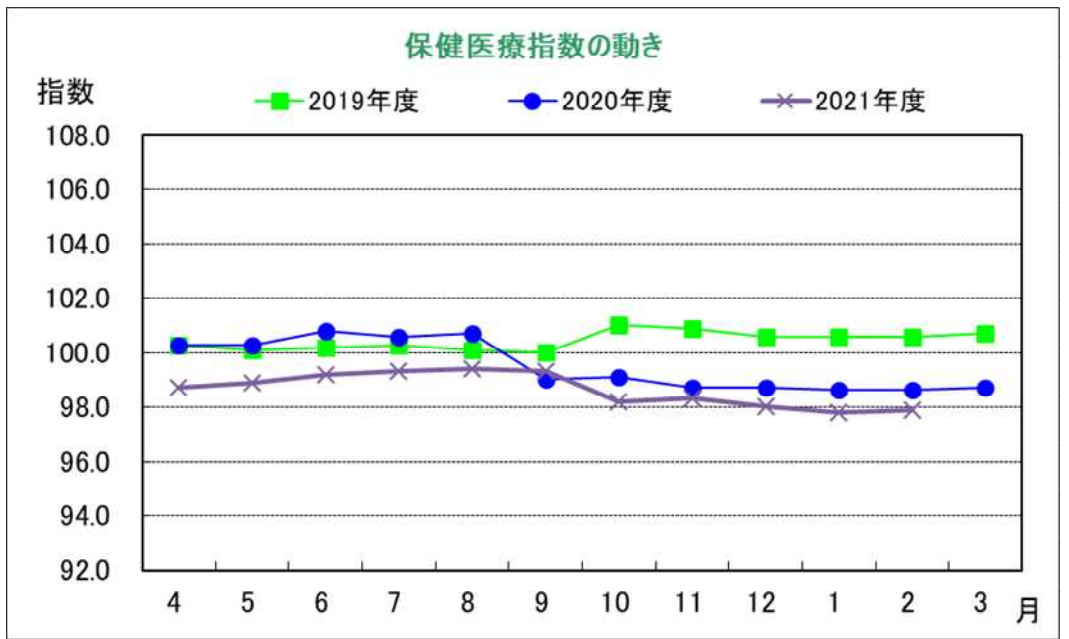
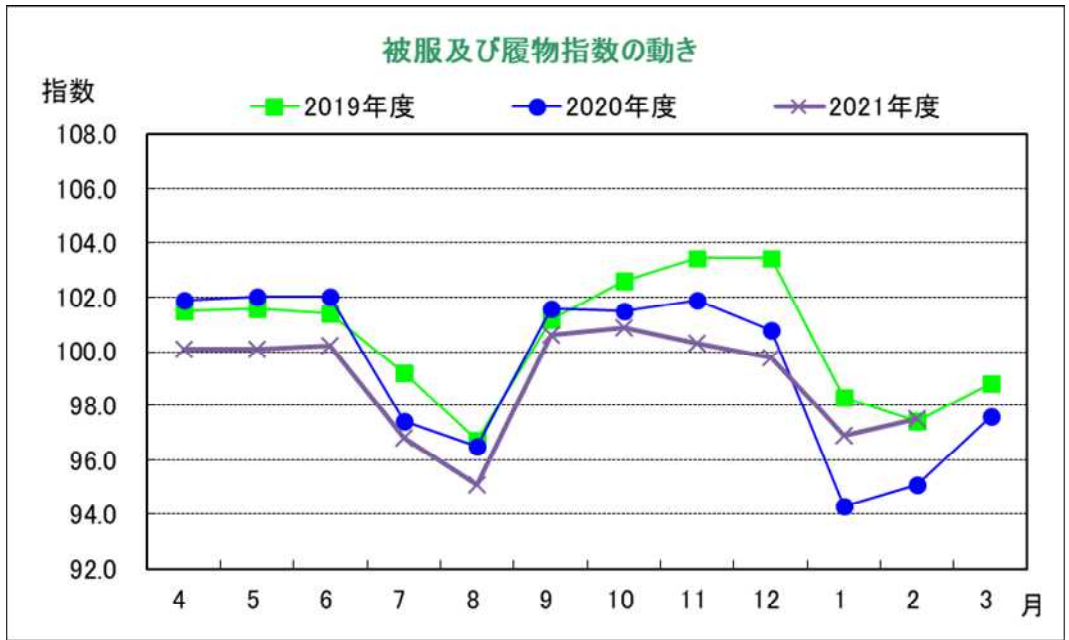
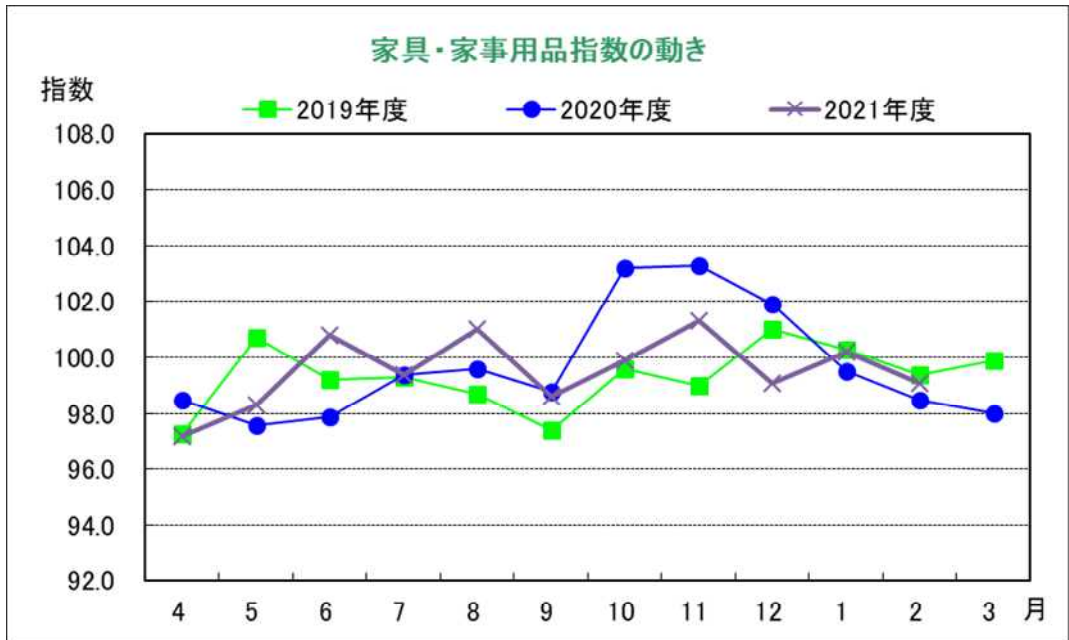
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2019年度	100.6	100.7	100.5	100.5	100.5	100.2	100.6	100.7	100.9	100.6	100.4	100.6
2020年度	100.3	100.2	100.1	100.0	99.7	99.5	99.7	99.5	99.3	99.5	99.5	99.7
2021年度	98.9	99.2	99.3	99.3	99.4	99.4	99.4	99.6	99.5	99.6	99.8	

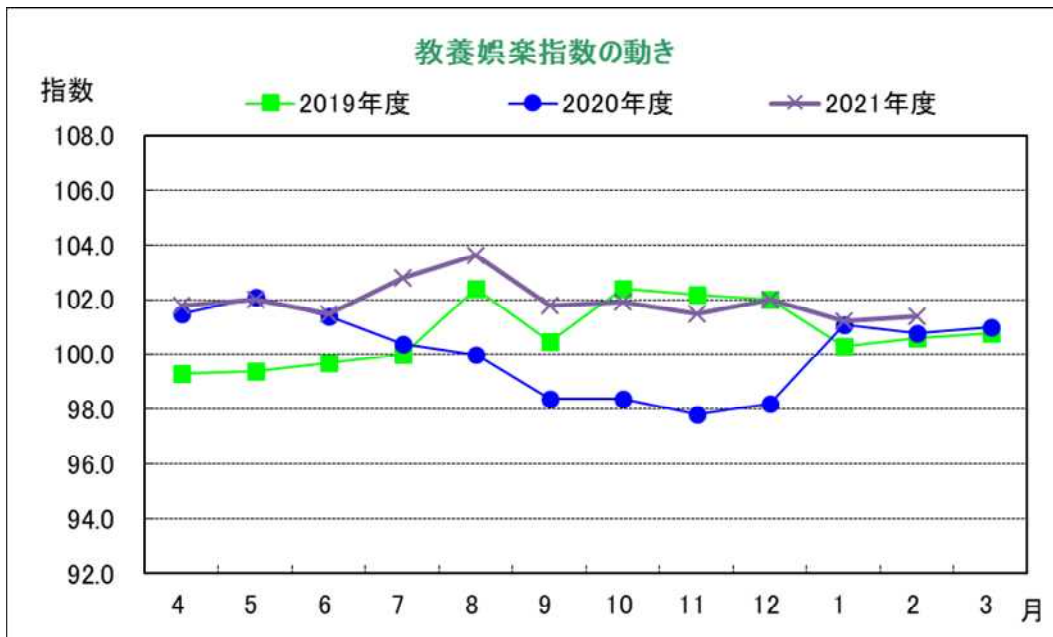
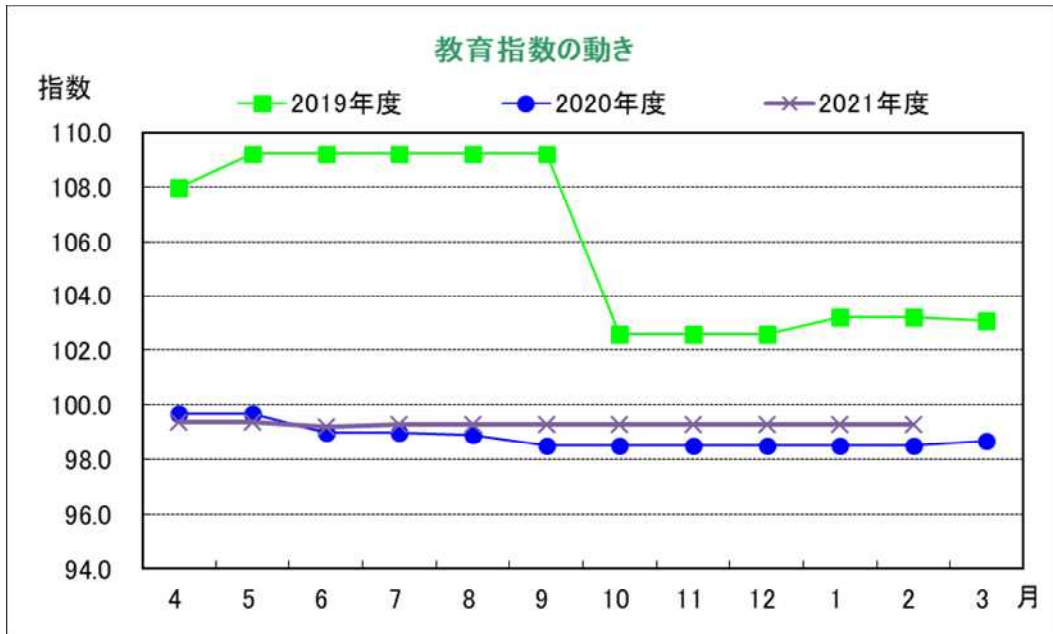
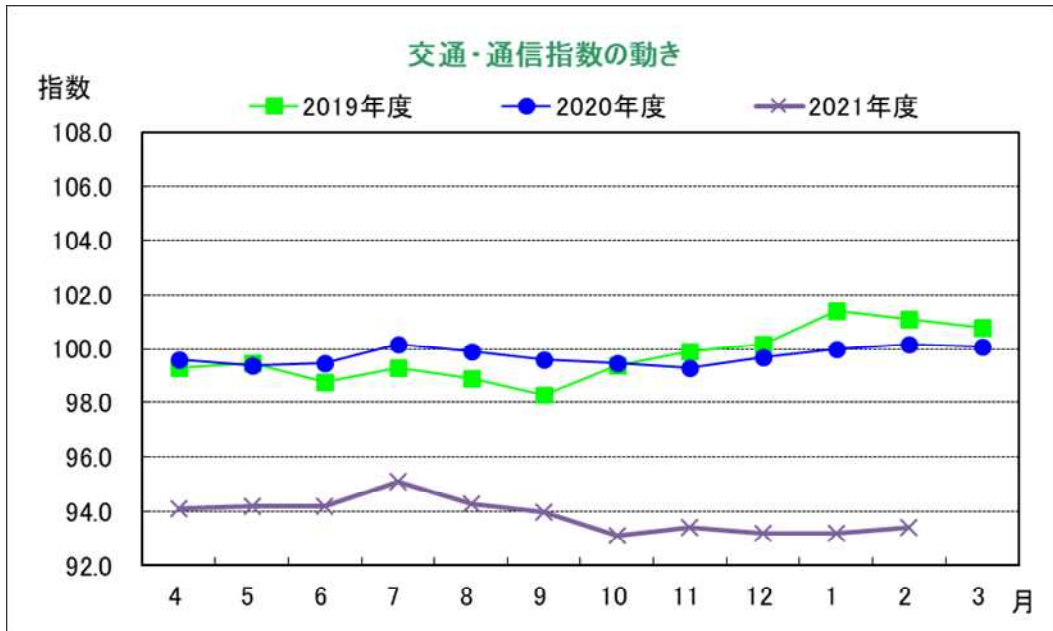


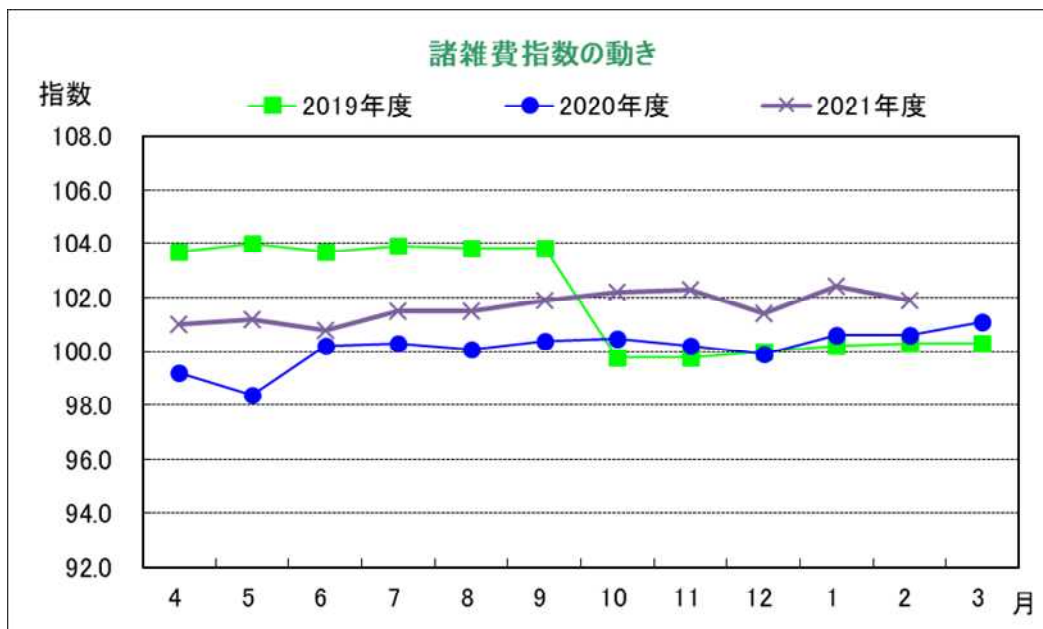
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2019年度	100.2	100.3	100.1	100.2	100.3	100.1	100.5	100.5	100.6	100.4	100.2	100.4
2020年度	100.3	100.2	100.1	100.0	99.7	99.5	99.9	99.8	99.6	99.7	99.7	99.7
2021年度	98.8	99.0	99.0	98.9	99.0	99.0	98.9	98.9	98.8	98.8	98.8	

9. 10大費目別の年度比較









【参考】

消費者物価指数とは

消費者物価指数は、日常生活で私たち消費者が購入する各種商品（財やサービス）の価格の動きを総合し、平均的な物価の動きをみるために作られるもので、国民の消費生活にとって最も身近な指数です。日常購入する食料品、衣料品、電気製品、医薬・化粧品などの財の価格のほか、授業料や家賃、理髪料、バス代などのようなサービスの価格の動きも含まれます。

10大費目とは

指数計算に採用する品目は、世帯が購入する多数の財・サービス全体の物価変動を代表できるように、家計の消費支出の中で重要度が高いこと、価格変動の面で代表性があること、さらに、継続調査が可能であること等の観点から選定された581品目に、持家の帰属家賃1品目を加えた582品目です。これらを大分類したものが10大費目です。

この資料は総務省統計局が作成、公表している全国の消費者物価指数のうち、大津市の消費者物価指数についてまとめたものです。

【次回資料提供予定】 令和4年(2022年)4月22日(金) 午前10時